

山田町観光復興ビジョン

山田プライド

計画期間 平成28年度～平成32年度

山田町
平成28年3月



<目次>

山田町の観光復興の実現に向けて	1
山田町観光復興ビジョンの策定にあたって	2
1. ねらいと位置付け	3
1-1. 観光復興ビジョン策定のねらい	3
1-2. 観光復興ビジョンの位置付け	3
1-3. 計画期間	3
2. 山田町を取り巻く周辺の動向	7
2-1. 社会経済環境の変化と国民の観光レクリエーション旅行の動向	7
2-2. 北東北地域の観光の現状と課題	11
3. 山田町の現状と課題	17
3-1. 山田町の概況	17
3-2. 地域資源と観光の現況	29
3-3. 観光復興に向けた課題	53
4. 山田町観光復興ビジョン	57
4-1. 基本理念	57
4-2. 将来目標像（ビジョン）とスローガン	58
4-3. 将来獲得を目指す観光ターゲット	62
5. 基本戦略と重点プロジェクト	63
5-1. 基本戦略	63
5-2. 重点プロジェクト	64
5-3. 山田観光復興ビジョンの体系	109
6. エリア別の取り組みの方向性	111
6-1. 山田湾と沿岸エリア	112
6-2. 船越エリア	114
6-3. 内陸エリア（豊間根）	116
6-4. 内陸エリア（関口・織笠）	118
6-5. 「オランダ島」および「浦の浜」の利活用について	120
7. 目標実現に向けた取組体制	125
7-1. 行政、民間事業者、町民等が参画した、協働による取組体制	125
7-2. 取組方法	128

7-3.	本ビジョンの普及啓発	130
8.	参考資料	131
8-1.	計画策定プロセス	131
8-2.	山田町観光復興ビジョン策定委員会	138
8-3.	山田町観光復興ビジョン策定ワーキング委員会	141

山田町の観光復興の実現に向けて

2011年3月の東日本大震災は、我が町に壊滅的被害をもたらし、観光や地元の各産業も例外ではありませんでした。

その後、関係者の皆さまのご尽力により、本町の観光は一步步復興してまいりました。カキ小屋の再開、鯨と海の科学館の改修、観光物産館ととの開設のほか、シーカヤック体験、震災語り部体験、漁業・農業体験といった体験観光の取り組みなどを通じて、観光復興への期待が高まっているところと感じております。

複合型産業である観光の復興には、官民・業種を問わず住民や事業者が連携し、協働することが重要です。そこで、町ぐるみで観光復興に取り組むための共通指針として、ここに「山田観光復興ビジョン」を策定しました。

本ビジョンでは、我が町が目指すべき将来目標像として「山田プライド」を掲げております。観光復興を、観光客に向けた取り組みとするだけでなく、山田町民一人ひとりが、山田町を誇りに思い、大切に守りながら、活用し、発信していく取り組みとして位置付けています。町民と観光客との交流が促進され、お互いの生活に潤いがもたらされるとともに、個々の個性や技術を生かした活躍の舞台づくりへとつながるよう、町民の皆さまの積極的なご参加とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、町外の関係団体・事業者の皆さま、本町の復興を応援して下さっている皆さまにも、引き続き温かいご支援をいただければ幸いです。

結びに、本ビジョンの策定委員会において1年間・延べ25回もの会議等を通じ答申を取りまとめた観光関連の事業者・団体等の皆さまに対し、改めて心からお礼を申し上げます。

平成28年3月
山田町長 佐藤 信逸

山田町観光復興ビジョンの策定にあたって

山田町観光復興ビジョン策定委員会は、平成 27 年 5 月に山田町長から付託を受け、観光面から山田町の震災復興のあるべき姿について、1 年間に渡り検討を行ってきました。

策定に当たっては、策定委員会（全 3 回）のほか、策定ワーキング委員会を設置し、ワーキング会議（全 7 回）、専門部会（全 13 回）、勉強会（全 2 回）において、観光に携わる立場からの専門的な視点や現場の意見を加えるという形で議論を重ねてきました。

このような検討結果を経て、本委員会として「山田町観光復興ビジョン」を取りまとめました。今後、本ビジョンに基づき、町民・地域組織・関係団体・事業者等の協力・連携により、効果的に観光復興を推し進めることを期待いたします。

平成 28 年 3 月
山田町観光復興ビジョン策定委員会
委員長 豊間根 章一